

（様式 1）実施報告書

1 応募者情報

（1）応募者団体情報

団体名	大阪市
-----	-----

（2）都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

○指定の有無 有・無

○指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

2 事業の概要

（1）全体概要

①事業の名称	大阪市における地域識字・日本語教育体制整備事業
②目的等	
1 目的	
平成 31 年 4 月「出入国管理及び難民認定法」改正による新しい在留資格の創設等によって、今後、在留外国人のさらなる増加が見込まれている。また、令和元年 6 月に施行された「日本語教育の推進に関する法律」では、基本理念として「日本語教育を受ける機会の最大限の確保」がうたわれており、外国人材の受け入れ・共生のための地域日本語教育を進めるため体制づくりを行うことが急務となっている。 本事業は、大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、識字・日本語教室に対する支援の充実や人材育成、生涯学習センター・国際交流センター・NPO 団体等の関係機関とのネットワークの構築に取り組むとともに、今後、より増加・多様化が想定される学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制の構築をめざす。	
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像	
【現在の状況：図示も可】	
大阪市では、識字・日本語の学習環境として、多様な活動が行われているが、各教室の設立経過の違いや、行政の所管部局が多岐にわたっていることなどにより、関係機関どうしの情報共有を含め、大阪市全体として有機的な連携等を行うための体制が十分に構築できていない。	
【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】	
大阪市における識字・日本語教育に関連する部局（教育委員会事務局生涯学習担当、市民局ダイバーシテ	

イ推進室、経済戦略局国際担当、各区役所など）の横断的な連携とともに、関連施設・機関等（生涯学習センター・国際交流センター・NPO 団体等・日本語学校等）とのネットワークを構築し、今後、より増加・多様化が想定される学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制づくりをめざす。

（２）令和４年度事業の概要

①事業の期間	令和４年４月１日～令和５年３月３１日（１２カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	
令和３年度は、コロナ禍により識字・日本語教室の休止期間等が生じたものの、感染防止対策を徹底したうえで学習活動の実施に努めたほか、オンラインを活用した人材養成事業や日本語学習などについて検討を行った。 また「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査」として、市内在住の外国人住民や識字・日本語教室、日本語学校等に対するアンケートやヒアリング等を通して、大阪市における識字・日本語の学習環境の現状や課題についての把握を行った。	
③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）	
「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査」の分析により、外国人住民や関連機関等の日本語学習環境についてのニーズを把握できた一方で、大阪市が実施する識字・日本語教室等の学習機会について、十分な認知を得られていないなどの課題も明らかになった。 また、各識字・日本語教室においては、対面での交流を通して日本語の日常会話を学べる場として、高いニーズがあることが把握できた一方で、この間の新型コロナウイルス感染拡大の影響にともない、教室の休止を余儀なくされるなど、継続的な学習環境の確保が課題となった。	
④令和４年度の目標	
・ 識字・日本語教室に対する支援の充実や人材育成 ・ 生涯学習センター・国際交流センター・NPO 団体等の関係機関とのネットワークの構築 ・ 学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制の構築 ・ 「大阪市識字・日本語教育基本方針（仮称）」の策定 ・ 潜在的な日本語学習ニーズに対する対応方策および識字・日本語学習環境の拡充に向けた検討	
⑤令和４年度の主な取組内容	
大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、上記目標の達成に向けて、下記の内容に取り組む。 ① 大阪市内における識字・日本語教育の実施に関する連携のための取組 ② 識字・日本語教育人材に対する研修 ③ 地域識字・日本語教育の実施 ④ 多様なニーズ・習得レベルに対応可能な日本語教室のあり方等検討 ⑤ 「大阪市識字・日本語教育基本方針（仮称）」の策定 ⑥ ICT を活用した日本語教室のあり方等検討	

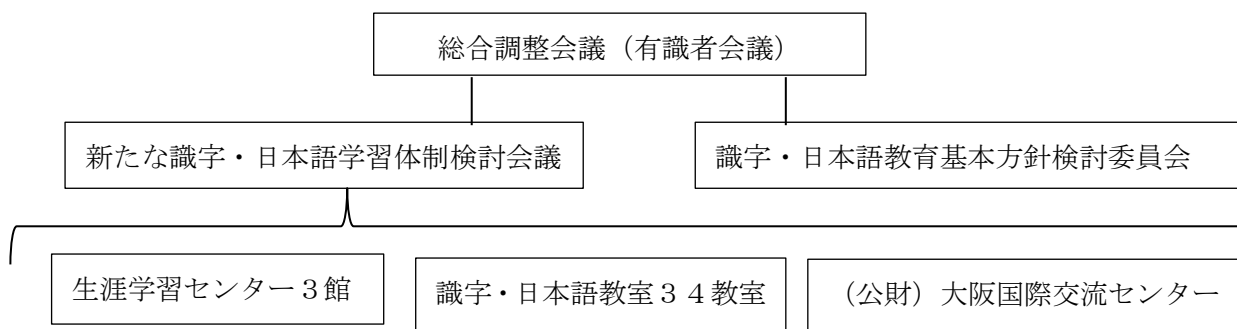
3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。）

・事業は、大阪府教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当が事務局となって、総合調整会議で審議を経ながら、すすめる。

統括責任者：生涯学習担当課長 比嘉 直子

事務局：生涯学習部生涯学習担当



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	柴田 亨	社会教育施設識字学級モデル教室「よみかき茶屋」	コーディネーター	総括コーディネーター
2	鵜飼 聖子	こどもひろば	事務局長	総括コーディネーター
3	鈴木 暁子	京都府立大学 京都地域未来創造センター	上席研究員	総括コーディネーター
4	丸山 敏夫	大阪市内識字・日本語教室連絡会	代表	地域識字・日本語教育コーディネーター
5	木下 和子	(公財) 大阪国際交流センター	事務局次長	地域識字・日本語教育コーディネーター
6	伊東 和子	(公財) 大阪YWCA日本語教室会	日本語講師	地域識字・日本語教育コーディネーター
7	掛橋智佳子	生活の漢字を考える会	日本語講師	地域識字・日本語教育コーディネーター

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

・識字・日本語連絡会との連携

(月 1 回程度、参加者：大阪府下での識字と日本語、夜間中学校に関わる団体や個人など)

大阪府、堺市とも協力しつつ、大阪府下での識字・日本語教室等活動の支援・充実に向けて、情報交換や交流会の実施等に取り組んだ。

・大阪識字・日本語協議会への参加

(年 2 回程度、参加者：大阪府、大阪市、堺市、識字・日本語連絡会、大阪府人権協会など)

行政と民間のネットワークの連携により、大阪府内の識字・日本語施策・事業の推進をめざすことを目的に、各自治体で実施している識字・日本語事業に関する報告や、今後の事業展開に関する意見交換を行った。

- ・外国にルーツを持つこども支援ネットワーク大阪会議（年１～２回程度）

外国にルーツを持つこどもの支援に携わるボランティア・運営担当者が気軽に集まり、顔の見える関係を築き、情報交換・共有、相談の場として開催し、地域でこどもをサポートする体制を強化する目的で開催している。今年度は「こどもひろば」・外国にルーツを持つこども支援ネットワーク参加教室の合同で研修会を実施し、こどもに寄り添った支援や指導の現場について学ぶ機会とした。会議以外にもメーリングリスト等で、教室の情報や外国にルーツを持つこどもやその支援者対象のイベント情報等を共有した。

４ 令和４年度の実施内容

（１）実施内容

１．広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
（取組①）総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
１	有田 典代	NPO 法人関西国際 交流団体協議会	理事	国際交流の実践者の立場からの 意見
２	岩槻 知也	京都女子大学	教授	学識経験者の立場から、識字教 育・社会教育・生涯学習の視点で の意見
３	上杉 孝實	京都大学	名誉教授	学識経験者の立場から、基礎教 育、学校と社会教育の連携につ いての意見
４	新矢 麻紀子	大阪産業大学	教授	学識経験者、日本語教室実践者 の立場から、地域ボランティア による日本語学習支援にむけて の意見
５	西口 光一	大阪大学	教授	学識経験者の立場から、職場や 地域等で行う日本語教育につい ての意見
６	森 実	大阪教育大学	名誉教授	学識経験者の立場から、人権教 育・社会教育についての意見
７	菅原 智恵美	大阪市内識字・日 本語教室連絡会	副代表	教室における学習支援の実践者 の立場からの意見
８	梅元 理恵	（公財）大阪国際交 流センター	常務理事兼事務局長	多文化共生の実践及び日本語教 室運営者の立場からの意見

②実施結果	
実施回数	1 回
実施 スケジュール	3 月 事業の進捗状況の確認・事業の総括・意見交換
主な検討項目	・令和4年度 識字推進事業の取組報告について ・令和5年度 識字推進事業の取組（案）について ・「(仮称) 大阪市識字・日本語教育基本方針」骨子案について ・文化庁補助事業「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」について
(取組②－1) 総括コーディネーターの配置	
・総括コーディネーター3名を配置し、今後の大阪市内の識字・日本語教育関係団体等の有機的な連携をめざして、各識字・日本語教室および（公財）大阪国際交流センター、NPO、日本語学校、大学等の関係団体等との有機的な連携の役割を担い、多様な識字・日本語学習ニーズに対応するための体制構築に向けた調整を行った。	
(取組②－2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組	
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】 ・識字・日本語教室でのコーディネートや運営の経験や、識字・日本語の指導経験のある方などを地域識字・日本語コーディネーターとして配置し、教室運営担当者が集まる「識字・日本語教室コーディネーター会議」への参加・意見交換などを通して、教室運営や指導手法等に関する指導・助言を行うとともに、各教室の状況や課題を踏まえて、地域の識字・日本語教室のあり方検討を行った。	
(取組②－3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置	
・調査・推進計画策定コーディネーターを配置し、「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査」の分析結果や本市の識字・日本語教育の現状等を踏まえ、「(仮称) 大阪市識字・日本語教育基本方針」の策定に向けた指導・助言を受けた。	
【重点項目】	
(取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組	
◎新たな識字・日本語学習体制検討会議 総括 Co と地域識字・日本語教育 Co が集まり、識字・日本語教室支援のあり方、関係機関の連携など、今後増加が見込まれる多様な識字・日本語学習ニーズに対応するための体制等について検討を行った。 (第1回) 【日 時】令和4年12月5日（土） 18時30分～20時30分 【場 所】Web 会議 【参加者】6名	

- 【内 容】 ・「大阪市識字・日本語教育基本方針」の骨子（案）について
・今後の識字・日本語教育体制の整備について
・その他

（第2回）

【日 時】 令和5年3月9日（木） 10時00分～12時00分

【場 所】 Web 会議

【参加者】 7名

- 【内 容】 ・「大阪市識字・日本語教育基本方針」の素案作成に向けて
・今後の識字・日本語教育体制の整備について
・その他

◎識字・日本語パネル展

大阪市内識字日本語教室の学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」をはじめ、各教室の様子を紹介する写真等を中央図書館ロビーにて展示を行った。

【実施期間】 令和4年9月16日（金）～10月5日（水）

【場 所】 大阪市立中央図書館 1階エントランスホールギャラリー

- 【内 容】 ・学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」の掲示
・各教室の様子を紹介する写真パネルの掲示
・各教室で作成した文集等の展示

◎識字・日本語教室コーディネーター会議

各教室の運営を中心的に担う識字・日本語教室の運営担当者（コーディネーター）が集まり、教室運営や関係機関との連携等について、情報共有および意見交換を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止対策として密を避けるとともに、より多くのコーディネーターに会議に参加していただくため、毎回、平日の午前と土曜日の夜間の2回、同じ内容での会議を行った。

（第1回）

【日 時】 ①令和4年6月27日（月） 10時～12時

②令和4年7月2日（土） 18時30分～20時30分

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

【参加者】 ①12名 ②12名

- 【内 容】 ・「人権の視点に立った識字・日本語教室運営のために」「差別事象対応マニュアル」について生涯学習担当より説明
・研修「ともに学び合う教室づくり－これだけは知っておこう日本語学習支援－」
講師：澤田 幸子（合同会社おおぞら日本語サポート）

（第2回）

【日 時】 ①令和4年11月26日（土） 18時30分～20時30分

②令和4年11月28日(月) 10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

【参加者】①14名 ②9名

【内 容】・研修「外国人住民の困りごと～(公財)大阪国際交流センターでの相談事例から～」

講師：鄭 淑仁 ((公財)大阪国際交流センター 国際交流担当課長代理)

(第3回)

【日 時】①3月15日(水) 10時～12時

②3月18日(土) 18時30分～20時30分

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

【参加者】①8名 ②14名

【内 容】・教室運営や活動に関する交流・意見交換

(取組⑤) 日本語教育人材に対する研修

◎識字・日本語交流ボランティア入門講座

識字・日本語教室でのボランティア活動を希望する方を対象に、活動を始める前に知っておきたい事柄や、教室で大切にしていることなどについて学ぶ入門講座を開催した。

(第1期)

【日 時】令和4年5月18日(水)～6月22日(水) 全5回 18時30分～20時30分

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：44名 参加者：29名 のべ参加者：130名

【内 容】

(第1回：5/18)

「識字・日本語教室ってどんなところ？」

～大阪の識字・日本語教室が大切にしてきたこと、大切にしてほしいこと～

講 師：丸山 敏夫 (大阪市内識字・日本語教室連絡会 代表)

(第2回：5/25)

「日本語学習支援ってどんなこと？～地域で共に暮らす「外国人」に必要な学習支援とは～」

講 師：澤田 幸子 (合同会社おおぞら日本語サポート)

(第3回：6/1)

「識字・日本語ボランティアをはじめる前に～学習者とのかかわり方について考える～」

講 師：栗本 敦子 (Facilitator's LABO(えふらぼ))

(第4回：6/2～21)

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

(第5回：6/22)

「人権を守る識字・日本語教室であるために～疑問に答え、ボランティアの役割を考える～」

講 師：森 実（大阪教育大学 名誉教授）

（第2期）

【日 時】令和4年9月2日（金）～9月30日（金） 全5回 19時～21時

【場 所】大阪市立難波市民学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：22名 参加者：21名 のべ参加者：84名

【内 容】

（第1回：9/2）

「識字・日本語教室ってどんなところ？

～大阪の識字・日本語教室が大切にしてきたこと、大切にしてほしいこと～」

講 師：丸山 敏夫（大阪市内識字・日本語教室連絡会 代表）

（第2回：9/9）

「日本語学習支援ってどんなこと？～地域で共に暮らす「外国人」に必要な学習支援とは～」

講 師：矢谷 久美子（日本語教育支援グループ「ことのは」 理事長）

（第3回：9/16）

「識字・日本語ボランティアをはじめる前に～学習者とのかかわり方について考えてみよう～」

講 師：金 香百合（HEAL ホリスティック教育実践研究所 所長）

（第4回：9/17～29）

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

（第5回：9/30）

「人権を守る識字・日本語教室であるために～疑問に答え、ボランティアの役割を考える～」

講 師：森 実（大阪教育大学 名誉教授）

（第3期）

【日 時】令和5年1月20日（金）～2月17日（金） 全5回 19時～21時

【場 所】大阪市立阿倍野市民学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：45名 参加者：29名 のべ参加者：121名

【内 容】

（第1回：1/20）

「識字・日本語教室ってどんなところ？

～大阪の識字・日本語教室が大切にしてきたこと、大切にしてほしいこと～」

講 師：丸山 敏夫（大阪市内識字・日本語教室連絡会 代表）

（第2回：1/27）

「日本語学習支援ってどんなこと？～地域で共に暮らす「外国人」に必要な学習支援とは～」

講 師：矢谷 久美子（日本語教育支援グループ「ことのは」 理事長）

（第3回：2/3）

「識字・日本語ボランティアをはじめる前に～学習者とのかかわり方について考えてみよう～」

講 師：北野 真由美(NPO 法人 えんばわめんと堺/ES)

(第4回：2/4～16)

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

(第5回：2/17)

「人権を守る識字・日本語教室であるために～疑問に答え、ボランティアの役割を考える～」

講 師：森 実(大阪教育大学 名誉教授)

◎識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座

現在、識字・日本語教室で活動しているボランティア講師を対象に、識字・日本語交流学習の意義や日本語学習の支援法など、教室での活動で役立つ実践的な手法や知識について学ぶ講座を実施した。

【日 時】令和4年10月15日(土)～12月17日(土) 毎週土曜日 全10回 14時～16時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【内 容】全10回の連続講座で、「識字・日本語教室の意義とボランティアの役割」「誰もが安心して学べる場とするためには」「外国人が学ぶ「外国語としての日本語」」「識字・日本語ボランティアに求められる人権感覚」などをテーマに、学習者との関わり方や識字・日本語の指導法や活動について学んだ。

【講 師】澤田 幸子(合同会社おおぞら日本語サポート) 栗本 敦子(Facilitator's LABO(えふらぼ))

伊東 和子(大阪YWCA日本語教師会 講師) ほか

【参加者】定員：20名 申込者：20名 参加者：18名 のべ参加者数：131名

◎識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座

現在、識字・日本語教室で活動しているボランティア講師等を対象に、日本の難民制度や外国にルーツを持つ若者が抱える課題など、外国人の現状や多文化共生社会における人権問題等について学ぶ研修を実施した。

【日 時】令和5年2月25日(土)～3月18日(土) 毎週土曜日 全3回 10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【内 容】

(第1回：2/25)

「日本の難民制度や難民支援について学ぼう」

講 師：田中 恵子(RAFIQ(在日難民との共生ネットワーク)共同代表)

定員：40名 申込者：23名 参加者：19名

(第2回：3/4)

「学習者とのコミュニケーションについて考えよう」

講 師：内山 唯日(Bridge Project 代表・多様性教育ファシリテーター・教育アドバイザー)

定員：40名 申込者：31名 参加者：27名

(第3回：3/18)

「外国にルーツをもつ若者(高校生年代～20代前半)が抱える課題について知ろう」

講 師：橋本 義範(NPO 法人おおさかこども多文化センター 事務局長)、カンデル ヒララル

定員：40名 申込者：30名 参加者：25名

◎しきじ・にほんごカフェ

学習者や支援者など、識字・日本語に関わる人、関心のある人を対象に、情報交換や交流の場として、会場参加とライブ配信とを併用して実施した。

【日 時】奇数月の最終土曜日 14時～16時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【内 容】

(第1回：5/28)

イベントタイム「おってみよう！「ORIGAMI」」

講 師：此花区 西九条小学校 生涯学習ルーム

定員：20名 参加者：24名（うちライブ配信1名）

(第2回：7/30)

イベントタイム「いっしょにまなぼう！防災」

講 師：大阪市北区役所職員

定員：20名 参加者：8名

(第3回：9/24)

イベントタイム「いっしょにやってみよう！切り絵」

講 師：谷田 有似（剪紙絵作家）

定員：20名 参加者：10名（うちライブ配信1名）

(第4回：11/26)

イベントタイム「年賀状をかこう！」

講 師：山崎 順子（PFC アドバイザー）

定 員：20名 参加者：10名

(第5回：1/28)

イベントタイム「いっしょにやってみよう！書道」

講 師：山本 好美(大阪市生涯学習インストラクター)

定員：20名 参加者：16名

(第6回：3/25)

イベントタイム「トーンチャイムをいっしょに演奏しましょう」

講 師：識字・日本語教室「よみかき茶屋」のみなさん

定員：20名 参加者：43名

	【連携内容】日本語教師の派遣、レベルチェックの実施等 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動 2	【名称】識字・日本語教室（既設） 【目標】国際化の進展による新たな外国人住民及びさまざまな理由により義務教育を十分に受けられなかった人など、日本語の読み書き、会話等に不自由している方々に対し学習機会を提供し、社会参加促進を図る。 【実施回数】のべ 1,253 回（1 回 1.5～2 時間） 【受講者数】のべ 6,765 人（登録者数 291 人） 【実施場所】市内小・中学校等 【受講者募集方法】教育委員会、総合生涯学習センターHP、生涯学習施設等でチラシ設置 【内容】マンツーマン・グループで、交流を通して日本語会話や読み書きを学ぶ。 【開始した月】4 月 【講師】のべ 6,522 人（登録者数 214 人） 【関係機関との連携】なし 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動 3	【名称】外国人ふれあいサロン（既設） 【目標】外国人住民の快適な生活に不可欠な日本語の指導を行い、特に、平日に日本語学校に通う機会のない外国人住民や、日本語学校の正規課程に入学し、長期間集中して日本語を学ぶ機会に恵まれない外国人住民に対し、日本語に触れ、学び、日本人と交流する機会を提供する。 【実施回数】41 回（1 回 1.5 時間） 【受講者数】153 人 【実施場所】大阪国際交流センター会議室 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook 【内容】基本 1 対 1 での日本語指導。会話を中心に、参加者の要望に合わせて日本語指導の経験をもつボランティアが対応。今年度はコロナも落ち着いてきたことから全回対面で実施した。参加者・ボランティアが気軽に集まり顔の見える関係を築き、日本語会話を楽しみながら、語学の習得と相互交流のための場を提供した。 【開始した月】4 月 【講師】ボランティア 25 人（うち日本語教師 0 人） 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし

活動 4	【名称】日本語オンライン教室（新設） 【目標】通える日本語教室が近くにない、子育てや高齢等さまざまな理由で外出や移動に不便を感じる等日本語を学ぶ機会を失い孤立する外国人住民もいることから、文化庁日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を活用したオンライン日本語教室の実施に向け、実施方法等の検討、養成等準備を行い、令和 5 年度の本格実施に備えた。 【実施回数】①ヒアリング調査（5 月～7 月） ②内部検討会 2 回（9 月～令和 5 年 2 月） ③オンライン日本語教室活動ボランティア研修会 4 回（令和 5 年 3 月） 【実施場所】大阪国際交流センター会議室／オンライン 【研修会受講者募集方法】財団登録ボランティアに案内、（公財）大阪国際交流センターHP 【内容】 ①ヒアリング調査 「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を活用した教室の実施団体をはじめ、オンラインによる日本語教室を行っている国際交流協会や NPO 団体等からその事業内容等についてヒアリングを行った。 ②内部検討会 「つながるひろがる にほんごでの暮らし」のサイト作成に携わった国際交流基金関西国際センター 日本語教育専門員や、日本語指導有資格者等からアドバイスを受け、実施内容（方法、カリキュラム等）について議論し、教室概要を確定した。 ③オンライン日本語教室活動ボランティア研修会 日本語指導資格を持ち、教室でのメイン講師補佐を希望するボランティアを対象に、指導方法や教材の活用事例などを学び、講座を通じ教室運営のノウハウやスキルを身に付ける講座を実施した。 【開催時期】令和 5 年 3 月 14 日、16 日、28 日、30 日【全 4 回】 【受講者数】12 人 【講師】第 2～4 回：国際交流基金関西国際センター 日本語教育専門員 熊野 七絵 氏・黒田 亮子 氏・笠井 陽介 氏 【内容】「つながるひろがる にほんごでの暮らし」やオンライン学習サイトの活用方法、カリキュラムに沿った日本語学習指導方法、授業シミュレーション 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動 5	【名称】日曜にほんごサロン（既設） 【目標】外国人が日本語について気軽に質問したり（例：手紙の読み方、書類の書き方等）交流できる場として、また、日本語が全く話せない外国人にとっては、日本の生活についての情報を得ることができる場として開催。「これから日本語を教えてみたい」と考える人や、自身の経験を活かしたいと考える外国人がボランティアとして担い手となり活躍しできる場でもある。また、毎週日曜に外国人が自由に

	参加し、日本語を学び、母語で交流し、相談できたりするなど、外国人住民の生活面のサポートも行う。また、令和2年度からコーディネーター（有償ボランティア）を導入しており、令和3年度に新規採用したコーディネーターの育成や研修を通してさらなるスキルアップを図るとともに、ボランティアによる自律的な教室運営をめざす。 【実施回数】40回（1回1.5時間） 【受講数】92人 【実施場所】大阪国際交流センター会議室 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook 【内容】基本1対1での日本語教室。今年度は、コロナも落ち着いてきたことから全回対面で実施した。参加者・ボランティアが気軽に集まり顔の見える関係を築き、日常生活で困ったこと・分からないことを助け合う関係性を作るとともに、参加者が日本語を学び会話するきっかけとなることで、日本語学習への意欲を高め、当財団や地域の日本語教室へ参加する機会へとつなげた。 【開始した月】4月 【講師】コーディネーター4人、ボランティア28人（うち日本語教師0人） 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動6	【名称】こどもひろば（既設） 【目標】大阪に暮らす外国人の増加とともに、保護者の少なくとも一方が外国人である、いわゆる”外国にルーツをもつ子ども”が増加している。こうした子どものうち、母国で中学校を卒業した後に渡日した子どもたち（ダイレクト）については、学校教育の対象外とされているのが現状である。また、外国にルーツを持つ子どもについては、家庭で日本語以外の言語が使用される場合が多く、自身のアイデンティティについて悩むことも少なくない。日本語学習についても、子どもの日常生活に沿った内容での支援が必要であるが、成人対象の教室と比べ、子ども対象の教室は少なく、日本語の支援を受けることができる場も十分にあるとはいえない状況である。 こうした子どもに対して、学校を含む生活全般で使う日本語を学ぶ場を提供し、日本人の子どもと同じように、安心して快適な生活が送れるようコーディネートする。また支援に携わるボランティアについては、対象児童に向けた効果的な日本語指導の方法について研修を実施し、ボランティアの資質向上を図った。 【実施時期・回数】 ・こどもひろば（ダイレクトを主な対象） - 全77回（日本語補習含む）1回3時間程度 （開始した月）4月 ・こどもひろばダイレクト対象日本語教室「みらい」 - 全79回 週1～2回、1回90分～120分 （開催時期）令和4年6月～令和5年2月

	【受講者数】（こどもひろば） 59 人、（みらい） 19 人 【実施場所】 大阪国際交流センター会議室/オンライン ※「みらい」については、新型コロナウイルス等の影響で対面での開催ができない場合は、一部オンラインにて開催した。 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook、小・中学校への周知等 【内容】「こどもひろば」では、日常生活、学習に必要な日本語を学び、子どもの日常や日本での生活の充実につなげる。教室については、ボランティアが協働し運営するとともに、母国で中学校を卒業して来日するいわゆるダイレクトの子どもたちについては、その日本語能力に応じた日本語習得を支援した。 参加者の支援の現場を支える人材の育成を図るため、令和 3 年度に採用したコーディネーター（有償ボランティア）を中心に教室がより持続的・自律的に運営できるように体制を整備した。 また今年度新たに、9 月または令和 5 年 4 月に日本の高校に進学予定のダイレクトを対象に、日本語教師の有資格者による日本語教室「みらい」を開催し、日本語を体系的に学び教科学習の基礎となる日本語学習を強化することで、より効果的にサポートを行った。 【講師】 （こどもひろば）コーディネーター7 人、ボランティア 37 人（うち日本語教師 0 人） （みらい）講師 6 人（日本語教師）、コーディネーター2 人、ボランティア 1 人 ・「こどもひろば」・「外国にルーツをもつ子ども支援ネットワーク大阪」研修会 外国にルーツを持つ子どもたちに寄り添った支援や指導の現状を共有し、地域でのボランティア活動に役立つワークショップ形式の研修会を実施した。 【開催時期】 令和 4 年 10 月 10 日（月）17：00～19：00 【参加者】 19 人（うち 6 名 ZOOM 参加） 【講師】 元大阪市日本語指導が必要な子どもの教育センター校担当 松本 香 氏 【内容】 大阪市の外国にルーツを持つ子どもたちへの支援や指導の現状、日本語指導方法のワークショップ 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動 7	【名称】 生活日本語コース（既設） 【目標】 外国人住民が、市民同様に快適に安心して生活できるように、最低限必要な日本語の会話能力の習得と、日本語の理解を高めることを目的として、（公財）大阪国際交流センターと独立行政法人日本学生支援機構大阪日本語教育センターとの共催で、大阪日本語教育センターの講師が指導する生活日本語コースを運営した。

	【実施日】 春コース：令和4年4月25日～7月8日【51日間】 夕方クラス 上記期間の火・木【20日間】 秋コース：令和4年8月22日～11月8日【51日間】 夕方クラス 上記期間の火・木【20日間】 冬コース：令和4年11月28日～令和5年2月28日【51日間】 夕方クラス 上記期間の火・木【20日間】 【実施回数】 ＜平日日中のクラス＞ ・1クール 2h×5日×10週＝100時間(平均) 6クラス×3期 ＜夕方クラス＞ ・1クール 2h×2日×10週＝40時間（平均）1クラス×3期 【受講者数】 参加者（一般）：216名、参加者（ウクライナ）：40名 【実施場所】 日本学生支援機構 大阪日本語教育センター/オンライン 【受講者募集方法】 (公財)大阪国際交流センターHP、チラシ掲示、大阪日本語教育センターHP等 【内容】 平日日中に集中的に学習するコースと、日中に受講が難しい学習者のための週2回の平日夕方のコースを開催した。プロの日本語教師の指導のもと、生活に必要な日本語を短期間で集中的・効果的に身に付けていただく機会とした。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、春コースおよび秋コースは、一部のクラスを除きオンラインによる遠隔での授業を行い、冬コースについては大阪府のコロナ対策方針を踏まえ、オンラインニーズが見込まれるクラスを除き、対面での授業を行った。 さらに、すべてのコースにおいて、人道的支援の観点から、ウクライナ避難民も受け入れた。 【講師】 16名（日本語教師） 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
活動8	【名称】 仕事のための実践日本語（既設） 【目標】 生活者としての外国人が大阪で仕事をするために必要な日本語や、企業文化等を実践的に学ぶ機会としての日本語教室。また、就職活動に必要な履歴書の書き方や面接の受け方についての講座を開講し、日本ですでに仕事をしている外国人、またはこれから就職/転職を希望する外国人が、希望通りの仕事を得て組織の中で日本人に交じって仕事がスムーズにできるようになることを支援した。

	【実施回数】 ○仕事のための実践日本語教室 1期15回×3期＝45回（1回 80分） ○就職のためのアドバイス講座 1期2回×3期＝6回（1回 80分） 【受講者数】43名（1期13名、2期15名、3期15名） 【実施場所】大阪国際交流センター会議室 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook、区役所、図書館、生涯学習施設、地域日本語教室、教会等にチラシ設置 【内容】 ○仕事のための実践日本語 企業などでの就業経験を持ち、日本語教師の資格を持つ講師が、オリジナルテキストを活用し、名刺の渡し方や電話の取次ぎ、メールの書き方など、日本で仕事をする上で必要な日本語や日本での慣習やスキルも含めて指導した。また日本語指導資格を持つ有償ボランティアが講師補佐として参加し、ロールプレイの補助等で活動していたことで、より効果的な授業を実施することができた。 ○就職のためのアドバイス講座 企業から定年退職をした経験豊かな講師を迎え、日本での就職面接の心得、履歴書の書き方などを、個別指導や模擬面接を含め指導した。 【実施時期】 第1期：令和4年5月14日～7月9日【毎週土曜午前】 第2期：令和4年9月10日～11月5日【毎週土曜午前】 第3期：令和5年1月7日～3月4日【毎週土曜午前】 【講師】日本語教師 2名、講師補佐ボランティア 3名 【関係機関との連携】大阪外国企業誘致センター（O-BIC）と共催。また各期、大阪府警察本部の申し出により、授業後に防犯講座を実施。 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし
（取組⑦～⑭）その他の取組	
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援	
（取組①）市区町村を支援して実施する日本語教育	
（取組②）取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育	

3.「日本語教育の推進に関する法律」第11条に基づく基本的な方針の作成				
(取組①) 基本的な方針を作成する上で必要となる委員会の設置				
【委員会の実施結果】				
実施回数	2回			
実施スケジュール	12月 骨子（案）の検討（新たな識字・日本語学習体制検討会議と共催） 3月 素案作成に向けた検討（新たな識字・日本語学習体制検討会議と共催）			
主な検討項目	・「(仮称) 大阪市識字・日本語教育基本方針」の骨子（案）および素案の検討			
【設置する委員会は、条例に基づく委員会か】				
【 】 条例に基づく 【 ○ 】 それ以外（※どちらか○で選択）				
	氏名	所属	職名	役割
1	柴田 亨	社会教育施設識字学級 モデル教室「よみかき 茶屋」	コーディネーター	識字・日本語教室の運営や学 習支援などの観点から、基本 方針策定に向けた指導・助言
2	鈴木 暁子	京都府立大学 京都地 域未来創造センター	上席研究員	外国人の生活支援等の視点 から基本方針策定に向けた 指導・助言
3	比嘉 直子	教育委員会事務局生 涯学習担当	生涯学習担当課長	成人基礎教育の観点から方 針の作成に向けた調整
4	橋本 英人	経済戦略局国際担当	国際担当課長	国際交流・国際関係団体との 連携の観点から方針の策定 に向けた調整
5	泉 三希彦	市民局ダイバーシテ ィ推進室	多文化共生担当課長	多文化共生の観点から方針 の策定に向けた調整
(取組②) 委員会における審議の基礎資料とするための調査実施				
(取組③) 委員会における調査審議を踏まえた基本的な方針の作成				
国の基本方針を参酌したうえで「(仮称) 大阪市識字・日本語教育基本方針」の策定作業に取り組んだ。策定にあたっては、大阪市の実情に応じた方針となるよう、大阪市の外国人住民の状況・動向や、令和3年度に実施した「識字・日本語教育に関する実態・ニーズ調査」の分析結果、有識者の意見等を踏まえて、作業を行った。基本方針については、当初、令和4年度中の策定をめざしていたが、関係部局との調整や方向性の検討に時間を要したこと、パブリックコメント実施による意見聴取の機会を設けるとしたことなどにより、令和5年度に成案を確定することとなった。				

【スケジュール】

- 4～6月 「実態・ニーズ調査」の分析および基本方針の方向性の検討
- 7～10月 関連部局との調整
- 10月 関連部局による骨子（案）検討会議
- 11～1月 基本方針の骨子（案）作成
- 12月 新たな識字・日本語学習体制検討会議（第1回）（骨子（案）の検討）
- 2月 社会教育委員会・教育委員会会議（骨子（案）の協議）
- 3月 新たな識字・日本語学習体制検討会議（第2回）（素案作成に向けた検討）
総合調整会議（第1回）（素案作成に向けた検討）

5 主要な取組の実施状況

令和4年4月	識字・日本語教室（通年）、外国人ふれあいサロン（通年）、日曜にほんごサロン（通年）、こどもひろば（通年）、生活日本語コース（春コース）
5月	基礎レベルの日本語教室（第1期）、識字・日本語交流ボランティア入門講座（第1期） 仕事のための実践日本語（第1期）
6月	識字・日本語教室コーディネーター会議（第1回）こどもひろば「みらい」
7月	
8月	生活日本語コース（秋コース）
9月	識字・日本語交流ボランティア入門講座（第2期）、 識字・日本語教室パネル展、仕事のための実践日本語（第2期）
10月	基礎レベルの日本語教室（第2期） 識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座
11月	識字・日本語教室コーディネーター会議（第2回）、生活日本語コース（冬コース）
12月	新たな識字・日本語学習体制検討会議（第1回）
令和5年1月	基礎レベルの日本語教室（第3期）、識字・日本語交流ボランティア入門講座（第3期） 仕事のための実践日本語（第3期）
2月	識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座
3月	識字・日本語教室コーディネーター会議（第3回） 新たな識字・日本語学習体制検討会議（第2回）、総合調整会議 オンライン日本語教室ボランティア研修会 下旬 事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法
【令和4年度の目標】（再掲） ・識字・日本語教室に対する支援の充実や人材育成 ・生涯学習センター・国際交流センター・NP0 団体等の関係機関とのネットワークの構築 ・学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制の構築 ・「大阪市識字・日本語教育基本方針（仮称）」の策定 ・潜在的な日本語学習ニーズに対する対応方策および識字・日本語学習環境の拡充に向けた検討
【令和4年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】 大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、上記目標の達成に向けて、下記の内容に取り組む。 ① 大阪市内における識字・日本語教育の実施に関する連携のための取組 ② 識字・日本語教育人材に対する研修 ③ 地域識字・日本語教育の実施 ④ 多様なニーズ・習得レベルに対応可能な日本語教室のあり方等検討 ⑤ 「大阪市識字・日本語教育基本方針（仮称）」の策定 ⑥ ICT を活用した日本語教室のあり方等検討 【指標1：定量評価目標】 識字・日本語ボランティア入門講座の受講者数および受講修了者のうち識字・日本語教室の活動に実際に参加した割合 ○目標値 受講者数：募集定員の80% [R2年度実績 102.7%（定員：75人 受講者：77人）] 活動参加割合：受講者数の50%（前年度実績：測定なし） ○実績値 受講者数：募集定員の105.3%（定員：75人 受講者：79人） 活動参加割合：受講者数の26.6%（受講者：79人 活動参加者（確認できたもの）：21人） 【指標2：定性評価目標】 「識字・日本語教室に参加することで、日本語が前より上手になった」と感じる割合 「識字・日本語教室に参加することで、前より日本で暮らしやすくなった」と感じる割合 ○目標値 各項目とも80%以上（R2年度実績 測定なし） ○実績値 「日本語が前より上手になった」と感じる割合：93.5% 「日本で暮らしやすくなった」と感じる割合：88.3% 【指標3：定量評価目標】 日本語オンライン教室指導者養成講座への参加者数および満足度 ○目標値 参加者数：12名 アンケート満足度80%以上（前年度実績：測定なし）

○実績値 参加者数：12名 アンケート満足度：100%

【検証方法】

・指標1については、事業ごとの参加者数の把握およびその後の活動参加について追跡調査した。指標2については、識字・日本語教室に参加している学習者に対してアンケートを実施。指標3については、事業の参加者数の把握および参加者に対するアンケートを実施した。

2. その他、令和4年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組3】識字・日本語教室の運営担当者との情報交換・連携の機会の実施

（定量評価）識字・日本語教室コーディネーター会議への各教室運営担当者の参加者数

今年度目標 のべ75名（年間3回開催）[R2年度実績：のべ69名（年間3回開催）]

R4実績値 のべ69名（年間3回開催）

（検証方法）事務局による人数集計

【取組6】初級日本語学習者に対する学習環境の提供

（定量評価）「基礎レベルの日本語教室」への参加者数（定員：20人×6コース）

今年度目標 108人 [R2年度実績：71人（新型コロナウイルスの影響により20人×4コース）]

R4実績値 182人

（検証方法）事務局による人数集計

【取組6】仕事のための実践的な日本語学習機会の提供

（定量評価）「仕事のための実践日本語」参加者数（定員：15名×3クール）

今年度目標 36名（R3年度実績見込み 29名）

R4実績値 43名

（検証方法）事務局による人数集計

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

（1）検証を踏まえた課題

令和3年度までは新型コロナウイルスの影響により識字・日本語教室の休止等が多く発生したが、令和4年度については、年間を通してほぼすべての識字・日本語関連事業を計画どおり行うことができた。一方、コロナ禍により減少していた外国人住民人口が再び増加に転じたことに伴い、学習希望者も増加し、「基礎レベルの日本語教室」への定員を大きく超える応募や、識字・日本語教室における学習支援者（ボランティア）不足といった課題が生じている。

また、一昨年度のコロナ禍での教室実施を通しオンラインによる日本語学習機会へのニーズの高さを実感したことから、令和5年度のオンライン日本語教室実施に向け、実施方法等検討を行った。既にオンライン教室を実施している他団体へのヒアリング等調査を通して検討を進めてきた。オンラインでの0初級者対象の支援であるため、画面共有等の機能を活用し十分な支援を行うには、1クラスの定員が10名に限定さ

れることや、対面での教室に参加ができないが日本語学習を希望する外国人を対象にするには、どの時間帯に開催するのが一番効果的なのか検証が難しく、課題が残った。そのため令和5年度実施時には、平日午前中と夜と開催時間を変えて2回開催し、参加者のニーズを図り、令和6年度以降の実施につなげる。

「(仮称) 大阪市識字・日本語教育基本方針」については、当初は令和4年度中の策定をめざしていたが、関係部局との調整や方向性の検討に時間を要したこと、パブリックコメント実施による意見聴取の機会を設けるとしたことなどにより、令和5年度に成案を確定することとなった。

また、大阪市の識字・日本語施策においては、施策にかかわる部局が複数存在し、有機的な連携が十分に図れていないという課題があるが、「総合的な体制づくり」や「(仮称) 識字・日本語教育基本方針」策定に向けた検討を進める中で、施策展開における役割分担の整理について具体的な議論を行うことができた。

(2) 今後の展望

大阪市においては、コロナ禍により減少していた外国人住民人口が再び増加に転じ、総人口に占める割合が5.5%に迫る中で、識字・日本語学習ニーズへの対応は喫緊の課題である。

オンライン日本語教室については現在ボランティア研修会を終え、プロの日本語教師が務めるメイン講師と、そのサポートをする日本語指導有資格者のボランティアが協働して運営する教室の実施に向け準備をしている。4月に受講者募集を開始するため、オンラインでの日本語支援を必要とする外国人に情報が届くよう多言語での広報等工夫する。また、教室での活動を通してボランティア自身が「つながるひろがる にほんごでのくらし」を活用した日本語学習支援のノウハウを身に付け、将来それぞれの地域で自主的に活動することができるような人材育成の機会とする。地域の日本語教室で0初級者に対する支援が可能なボランティアが限定されている現状をふまえ、今後ますます在住外国人の増加が見込まれる中、初級レベルの学習者対象の日本語支援ができる人材を増やしていき、オンラインで支援を受けることができる体制を整備したい。

令和5年度は、「(仮称) 大阪市識字・日本語教育基本方針」の策定作業を秋ごろまでに完了し、その理念に基づき、多様なニーズ、習得レベルに対応可能な学習環境のあり方などについて具体的な検討を行うとともに、識字・日本語教育施策の充実に向けた予算の確保に取り組む。

また、今年度構築したネットワークをより拡充し、大阪市の識字・日本語施策における総合的な体制づくりに向けて、引き続き有機的な連携に向けた取り組みを進めるとともに、人材育成や事業の実施において、具体的な役割分担や連携強化についての議論を深めていく。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

(1) 課題と困難な状況への対応方法

「(仮称) 識字・日本語教育基本方針」の策定にあたり、対象領域に関する議論を進める中で、例えば就労者に対する日本語教育の進め方を整理する際の産業振興関連部局との連携や、未就学や高校生、ダイレクトなど、義務教育外の子どもに対する日本語教育の実施など、識字・日本語教育事業を実施している関連部局だけでは解決が困難な課題が明らかになってきている。識字・日本語学習ニーズのある層が多岐にわたる中で、この間の意見聴取においても、この課題は全市的に取り組むべきものとの意見も得ており、庁内において、より幅広い部局の参画を得た横断的な検討部会を立ち上げて検討を行うとともに、本市以外の関連機関との連携を深めていく。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1-⑥-2	識字・日本語教室
	
1-⑥-4	オンライン日本語教室 活動ボランティア研修会
	

【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
	該当なし	